

研究紀要



平成29年度

広島県立西条特別支援学校

は じ め に

本校は、創立 45 年目を迎えた肢体不自由特別支援学校です。

近年、インクルーシブ教育システム構築と合わせて、重複障害教育の充実、個別の指導計画や個別の教育支援計画の充実と効果的な活用の推進等、本校においても肢体不自由教育の専門性の更なる充実が求められています。

本校の教育は、全ての児童生徒が肢体不自由であること、さらに約 7 割の児童生徒が知的障害やその他の障害を併せ有している重複障害者であることを常に念頭に置き、その現状を踏まえた教育を推進していくことが重要です。そのため、学習指導要領の重複障害者等の指導に関する規定を踏まえ、児童生徒が主体的、意欲的に取り組むことができる効果的な教育活動を工夫する必要がありますと考えています。

これまでの本校の教育研究を踏まえ、今年度から 3 年間の研究テーマとして「主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり」を設定し、3 年分の研究計画をもとに取組を進めているところです。

今年度は、『本校児童生徒の実態に応じた「主体的な学び」』をサブテーマとして、本校としてのアセスメントツールである「自立活動アセスメントシート」「上肢の動きチェックシート」の改善に取り組むとともに、児童生徒の実態把握を深め、根拠を明確にし、目標設定の検討や指導方法の改善など、自立活動の指導の充実を目指していきます。

また、実態把握の内容をあらかじめ設定し、継続的な把握による学習状況の評価や指導過程全体を捉え直す評価を充実させ、精度の高い授業づくりができるよう具体的な取組につなげていきたいと考えています。

最後になりましたが、本校の公開授業研究会にあたり、御指導・御支援を賜りました
広島大学教育学研究科特別支援教育学講座 専任講師 船橋 篤彦 様
広島県教育委員会特別支援教育課指導主事 内田 俊行 様
広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部指導主事 濱崎 奈緒 様
その他、多くの関係者の方々に感謝し、心から厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

広島県立西条特別支援学校
校長 立石 均

目 次

はじめに

1	テーマ	1
2	取組	
	(1) 専門性の向上に向けた取組	1
	(2) 公開授業研究会	2
	①小学部学習指導案及び研究協議のまとめ	2
	②中学部学習指導案及び研究協議のまとめ	11
	③高等部学習指導案及び研究協議のまとめ	20
	④講演のまとめ	28
	(3) 校内研修会	30
3	成果	32
4	今後の課題	33

おわりに

別冊資料 自主製作による教材・教具，支援具の紹介

1 テーマ

今年度より「主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり」を研究テーマとしている。様々な実態をもつ本校の児童生徒にとっての主体的な学びとは何か、研究を通して児童生徒の「主体的な学び」について捉え直し、そのための授業づくりについて研究を深めていく。また、主体的な学びを通して児童生徒に付けさせたい力とは何か、児童生徒の将来像を見据えた取組を行う。

3年間の研究計画は次のとおりである。

- 1年目（平成29年度）・・・本校児童生徒の実態に応じた「主体的な学び」
- 2年目（平成30年度）・・・児童生徒の「主体的な学び」を促す授業づくり
- 3年目（平成31年度）・・・「主体的な学び」を通して育む目指す子ども像

2 取組

（1）専門性の向上に向けた取組

アセスメントツール（自立活動アセスメントシート、上肢の動きのチェックシート）の活用を推進する。ツールの改善や手引の改訂に取り組む。

児童生徒の実態把握を自立活動6区分を観点にして整理するためのツールとして、平成26年に作成していた自立活動アセスメントシート Ver.1を Ver.2（「上肢の動きのチェックシート Ver.2」は身体の動きに含める）に改訂し、発行した。学習指導要領自立活動編解説の内容を踏まえて、全ての類型で学ぶ児童生徒の実態把握に対応できるように改善をしている。

(2) 公開授業研究会

① 小学部学習指導案及び研究協議のまとめ

○小学部学習指導案

表現活動学習指導案

指導者 樋上 良子 (T1)
佐藤 祐子 (T2)
驥本 麻衣 (T3)

- 1 日時, 場所 平成 29 年 9 月 29 日 (金) 3 校時 (10:35~11:20)
小学部 1 年 1 組 教室
- 2 学部, 学年, 学級 小学部 第 1 学年 1 組 III 類型 3 名
- 3 題材名 「音で遊ぼう②」

4 題材設定の理由

○ 児童観

本学級は肢体不自由と知的障害を併せ有する重複障害学級である。在籍児童は 3 名で、3 名とも III 類型 (自立活動を主とした教育課程) を履修している。

A 児は染色体の先天性体幹機能障害で、定頸はしており、不安定ではあるが自力で座位を取ることができる。いす座位では足裏を床につけておくことが難しく、両足を座面に上げてしまうことが多い。移動は SRCW や足こぎ遊具を使って足で蹴って進むことができる。床上では体操座りですべて移動することが多い。上肢の操作は両手を同時に使うことが多い。左右の分離した動きはまだぎこちないが、日常生活の中で靴を脱いだりスプーンを上から握って口に運んだりする様子が見られるようになってきた。教師の顔を見ながら指さしをして要求を伝えたり、教師の指さす先を見たりすることができる。指さしや発声などで「僕は外に行きたい」といった内容を人に伝えることができる。好きな手遊びなどでは、教師の様子を見て動作を模倣することができる。「いないいないばあ」やかくれんぼで隠れた人を見つける遊びが好きで、何度もやりたいと要求する様子が見られる。学習時に気になるものや人が見えるとそちらに気を取られて集中できないことがある。

B 児は脳出血による脳性麻痺で四肢体幹に麻痺がある。定頸しておらず、姿勢を自力で保持することが難しい。一日数回発作があり、突然の音や刺激等で眼振や眼球固定の発作を起こすことがある。日中は覚醒して学習に参加できることが多い。捻転性の筋緊張があり、全身を強く伸展させ、反りかえらせることがある。緊張が高まると両腕を強く伸ばして内旋させ、力を抜くまでに時間がかかることがある。頭を正中に保つことが難しく、座位保持装置付き車いすでも顔が左に向くことが多い。学習時はティルトで後傾した座位保持装置付き車いすや、ベンチいす座位、あぐら座位などで行うことが多い。ベンチいすやあぐら座位で後方からの支援を受けながら姿勢を取ることができるようになってきた。坐骨に体重が乗ることで緊張が高まることが多かったが、繰り返すことで少しずつ落ち着いて姿勢を保持できるようになってきている。聴覚は過敏はあるが、活用できる。親しい人に言葉を掛けら

れると表情を緩ませる。生活の中で、繰り返し聞いている決まった音や働き掛けに対して笑顔を見せたり、表情を変えたりすることができる。トランポリンやボールに乗った揺れ遊びでは、笑顔を見せたり、声を出したりすることができる。

C児は脳性麻痺で四肢に麻痺があり、特に右の麻痺が強い。定頸はしており、座位を取ることはできるが、下肢の踏ん張りが弱いため不安定である。移動は自力ではいざり這いや膝立歩行、介助での歩行ができる。情緒の変動によって泣き出したり、突然全身を伸展させたり、身体を大きくロックンロールさせたりすることがある。弱視・斜視があるため、眼鏡を着用している。聴覚と視覚刺激に過敏に反応する。上肢の動きは、左手で握る等の操作はできる。右に身体が傾きやすいため、机上から右肘が落ちないように配慮が必要である。右手は自分から動かそうとすることは少ないが、促されると使おうとする様子が見られることもある。会う人に自分から手を振ったり、うなずいたりしてあいさつをすることができる。手遊びなどでは、教師の見本を見て一部の動作を意欲的に模倣することができる。初めてのことや普段と異なる環境では表情や身体が硬くなり、活動ができなくなることがある。見通しをもつことができると活動の流れの中で状況を理解して自ら動くことができる。

○ 題材観

「表現活動」は、「各教科等を合わせた指導」の一つとして本校が設定している指導形態である。本題材では、音楽科の「音楽遊び」と国語科の「聞く・話す」の各1段階、自立活動として個々の実態に応じた内容を取り扱う。

本題材では、様々な感覚を活用しながら、音や音楽を聴く、楽器に触れる、身体を動かす等の活動を行い、児童の主体的な動きや表現を高めていきたい。

授業の始めには触覚刺激と歌を合わせて感覚の受容を高めるために、カバサを用いた活動を行う。歌い掛けながら教師がカバサを児童の身体に当てて鳴らすことにより、音や触覚刺激を感じ、自分の体の感覚や部位を意識することにもつながると考える。

歌遊びでは、「メリーゴーランド」という歌を用い、ローリングボードで回転運動を経験する。「メリーゴーランド」は3拍子のワルツで、同じリズムやメロディーが繰り返され、見通しがもちやすい曲である。4小節ごとに動く向きを変えることによって、身体の動きを通して音楽を感じることができる。4小節の終わりごとに教師がトライアングルを鳴らすことで、より変化を意識できる。歌に合わせて身体の動きを経験することで音楽の心地よさを感じたり、見通しや期待感をもったりすることができ、児童の表出を促すことができると考える。

楽器遊びでは、最初にドラムやタンバリンを鳴らす活動を行う。1学期から、音遊びの授業で毎回継続して取り組んできている活動である。「太鼓をたたこう」という歌に合わせてドラムなどを提示することで、鳴らすタイミングを伝えることができる。児童に応じて提示の仕方を工夫し、両手で叩く、片手ずつ叩く、振動や響きを感じる等の課題を設定することで個々の課題に取り組むことができる。自分で音を鳴らしたり、教師と一緒に音を鳴らしたりすることで因果関係を理解したり達成感をもったりすることができ、主体的な活動の広がりが期待できる。

次に、鉄琴やオーシャンドラムなどを鳴らす活動を行う。A、C児はローラーを滑らせて鉄琴を鳴らし、B児は手で押してオーシャンドラムを鳴らす。これまでに、児童はツリーチャイムやカスタネットを鳴らす学習を経験している。ツリーチャイムの時に学習した「きれいな音だな」という歌を用いることで、歌の中の鳴らすところを意識することができる。鉄琴はローラーを滑らせて音を鳴らす。叩く動きはこれまでに他の楽器で取り組んでいるが滑らせる動きは初めてである。歌

と合わせて「シュー」などの言葉を使ったり、滑らせる所を視覚的に示したりして動きを意識できるようにする。また、最後に置く場所を示すことで、終わりが分かるようにする。オーシャンドラムは提示の仕方を工夫することにより、児童が上から押すことで面が傾き、中の玉状のものが動いて音や振動を感じるができる。

○ 指導観

指導に当たっては、児童が自分から表現したくなるよう、教師の働き掛けや環境の設定等を工夫する。児童の主体的な学びを促すために、以下の点に留意して指導を行う。

- ・自発的な動きを主体的な活動につなげていくために、一定期間同じ流れを繰り返すことで児童が見通しや期待感をもって活動に取り組めるようにする。
- ・言葉掛けを精選し、言葉以外の様々な感覚を用いて認知できるような働き掛けを行うようにする。（動き、歌、身体接触等）
- ・T1とT2、T3の役割を明確にし、児童がT1の働き掛けに注目できるように環境設定をする。
- ・上肢を使った活動が広がるように、姿勢の取らせ方に留意したり、正中を超えた動きを取り入れるなどの体重移動を促すような働き掛けを行ったりする。
- ・児童に応じて楽器の使い方や提示方法、歌い掛ける速さ等を変えることで、児童の気付きを促し、個々の課題に取り組むことができるようにする。
- ・児童の活動に対して、拍手をしたり、身体に触れたりして即時評価を行うことで、児童が快を感じたり、自分の活動を肯定できたりして、またやりたいという気持ちをもてるようにする。

5 「目指したい姿」と「主体的な学び」

児童	目指したい姿	主体的な学び
A	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に分かりやすく伝える手段をもつことができる。 ・活動の見通しをもち、一人でできる活動を増やす。 ・身体の使い方を知り、様々な日常生活動作がスムーズにできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの中で見通しをもち、流れに応じて身体を動かしたり、意識して楽器を鳴らしたりする。 ・やりたい楽器等を選んだり、鳴らし方を変えたりする。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な身体の状態でのいろいろな姿勢を取ることができる。 ・自分で動かせる部位を意識し、少しでも自ら動かそうとする。 ・好きな活動が増え、周囲に分かりやすく気持ちを表出することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に楽器に触れ、音に注意を向けたり、身体の力を適度に入れたいりする。 ・回転や振動、音などの様々な刺激を受け止め、快・不快を表出する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや身体の調整ができ、活動や作業に集中して取り組むことができる。 ・身近な人に声や動作で分かりやすく伝えることができる。 ・活動の見通しをもち、簡単な日常生活動作を自ら行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しの中で見通しをもち、歌に応じて身体を動かしたり、意識して楽器を鳴らしたりする。 ・いろいろな鳴らし方をしたり、手の出し方を変えたりする。

6 単元の目標

- ・様々な刺激を受けて、快の表情を示すことができる。
- ・音楽が流れている中で体を動かして楽しむことができる。

- ・音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器などでいろいろな音を鳴らしたりして楽しむことができる。
- ・教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現することができる。

7 指導計画（全 28 時間）

音で遊ぼう②・・・28 時間（本時 8 /28）

8 本時の目標

○ 全体の目標

- ・楽器に自らまたは教師と一緒に触れ、音を鳴らすことができる。
- ・楽器の音や音楽、揺れなどを感じて気持ちを表情等で表現することができる。

○ 個々の目標と評価規準（○自立活動の目標 ◎教科の目標）

児童	これまでの様子	目 標	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランコでは教師の支援を受けながら揺れに応じて姿勢を保つことができる。 ・ドラムは左手で叩くことが多いが、2つ提示されると両手で同時に叩くことができる。 ・繰り返すことにより、短い歌の中で楽器を鳴らすところを意識して鳴らそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ローリングボードの動きに応じて手をついて姿勢を保とうとする。 ○ドラムを両手で同時に叩いたり、片手ずつ叩いたりすることができる。 ◎教師の働き掛けや歌に応じて、鉄琴と太鼓を順番に鳴らすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローリングボードの動きに応じて手をついて姿勢を保とうとしたか。 ・ドラムを両手で同時に叩いたり、片手ずつ叩いたりすることができたか。 ・教師の働き掛けや歌に応じて、鉄琴と太鼓を順番に鳴らすことができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・トランポリンの縦揺れが好きで笑顔が見られるが、ブランコでは慣れるまでは力が入ることが多い。 ・腕が強く伸展し、内旋すると緩みにくいですが、教師の働き掛けにより緩めることができる。 ・タンバリンを振った音で笑顔を見せることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ローリングボードの動きを感じ、適度に身体の緊張が緩んだり、表情を変えたりすることができる。 ○適度な緊張で腕を緩めて楽器に触れ、教師と一緒に身体を前後に動かして鳴らすことができる。 ◎楽器の音や手触り、振動に気付き、表情を変化させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローリングボードの動きを感じ、適度に身体の緊張が緩んだり、表情を変えたりすることができたか。 ・適度な緊張で腕を緩めて楽器に触れ、教師と一緒に身体を前後に動かして鳴らすことができたか。 ・楽器の音や手触り、振動に気付き、表情を変化させることができたか。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな揺れなどの刺激に反応し身体を伸び上がらせることがある。繰り返すことで落ち着いて姿勢を保つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ローリングボードの動きに応じて落ち着いて姿勢を保つことができる。 ○正中線を越えて左手を伸ばしたり、右手も自ら出したりしてドラムを叩 	<ul style="list-style-type: none"> ・ローリングボードの動きに応じて落ち着いて姿勢を保つことができたか。 ・正中線を越えて左手を伸ばしたり、右手も自ら

	<ul style="list-style-type: none"> ・正中線を越えて左手を伸ばし，ドラムなどを叩くことがあるが，姿勢が崩れやすい。 ・繰り返すことで，楽器を鳴らすタイミングで手を出そうとする。 	<p>ることができる。</p> <p>◎歌や教師の働き掛けに応じて，鳴らし方を理解して複数回鳴らすことができる。</p>	<p>出したりしてドラムを叩くことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌や教師の働き掛けに応じて，鳴らし方を理解して複数回鳴らすことができたか。
--	---	--	--

9 準備物

授業カード，エナジーチャイム，カバサ，ハンドドラム，タンバリン，ローリングボード，トライアングル，鉄琴，オーシャンドラム，ローラー，エアレックスマット

10 学習過程 別紙参照

11 評価の観点

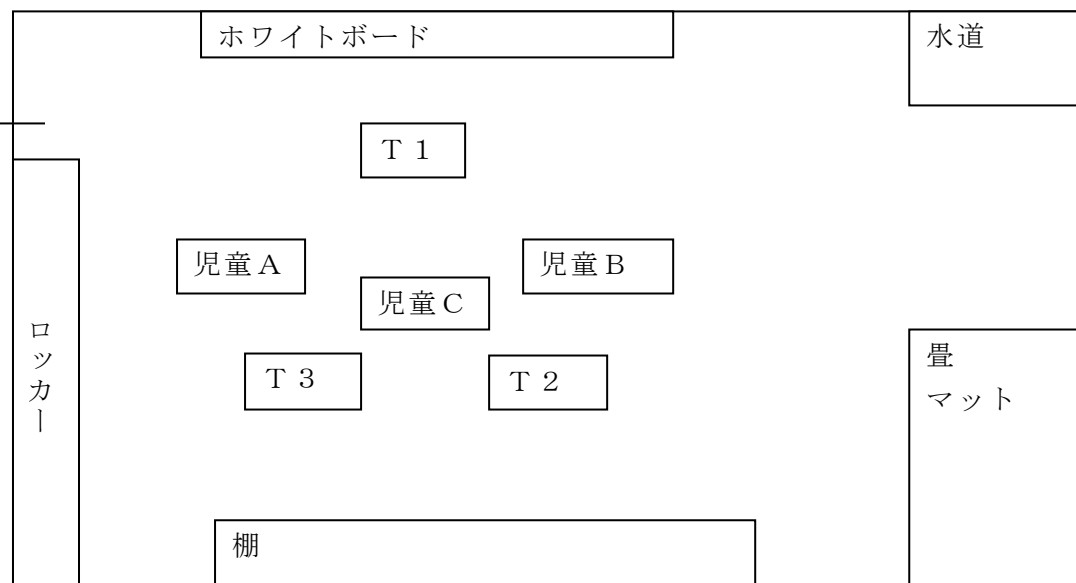
○ 指導上の評価

- ・児童が主体的に活動できるような指導内容であったか。
- ・働き掛けや環境設定等は適切であったか。
- ・使用した教材・教具は効果的であったか。

○ 自立活動の内容に基づく評価

- ・児童の適切な実態把握に応じた的確な目標設定であったか。
- ・個々の児童の目標はどの程度達成できたか。

12 配置図



学習活動	・指導上の留意点, □課題(網掛け:主体的な学び), ○支援, ☆評価			
	A	B	C	全体
<p>1 あいさつ</p> <p>2 ふれあい遊び 「カバサを鳴らそう」</p> <p>3 歌遊び 「メリーゴーランド」</p> <p>4 楽器遊び ハンドドラム, タンバリンを使って 「太鼓をたたこう」</p>	<p>○決まった言葉掛けや, 動作で姿勢を整えることを伝える。</p> <p>○「どこにする?」と聞き, 自ら身体の部位を指さして伝えることを待つ。</p> <div data-bbox="501 560 871 719" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ローリングボードの動きに応じて手をついて姿勢を保とうとする。</p> </div> <p>・あぐら座位で手をつき, 姿勢を整える。</p> <p>○自分で姿勢を保てる程度の強度で動かす。予測ができるように歌い掛け方等を工夫する。</p> <p>☆ローリングボードの動きに応じて手をついて姿勢を保とうとしたか。</p> <div data-bbox="501 1209 871 1369" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ドラムを両手で同時に叩いたり, 片手ずつ叩いたりする。</p> </div>	<p>○座位保持いすで姿勢を整え, 決まった言葉掛けや身体接触等で始まりを伝える。</p> <p>○カバサで触れる部位を教師が触れて伝えてから始めるようにする。</p> <div data-bbox="958 552 1337 751" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ローリングボードの動きを感じ, 適度に身体の緊張を緩めたり, 表情を変えたりする。</p> </div> <p>○T2が後方から支えてあぐら座位を取り, 姿勢を整える。身体が伸展しないように動きを調整する。</p> <p>☆ローリングボードの動きを感じ, 適度に身体の緊張を緩めたり, 表情を変えたりすることができたか。</p> <div data-bbox="978 1185 1337 1350" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>楽器の音や手触り, 振動に気付き, 表情を変化させる。</p> </div> <p>○初めにタンバリンを振った</p>	<p>○決まった言葉掛けや動作で姿勢を整えることを伝える。</p> <p>○教師が身体の部位を指さしながら伝え, 自分からその部位を動かすことをできるまで待つ。</p> <div data-bbox="1435 520 1821 675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ローリングボードの動きに応じて落ち着いて姿勢を保つ。</p> </div> <p>・あぐら座位で左手を下ろして姿勢を取る。</p> <p>○動きを感じ取れるように強めの刺激を入れる。興奮しすぎないように歌い掛けや動かし方を調整し, 興奮したら動きを止めて落ち着くまで待つ。</p> <p>☆ローリングボードの動きに応じて落ち着いて姿勢を保つことができたか。</p> <div data-bbox="1435 1158 1821 1334" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>正中線を越えて左手を伸ばしたり, 右手も自ら出したりしてドラムを叩く。</p> </div> <p>○提示の位置を変化させること</p>	<p>○エナジーチャイムを鳴らす, 始まりの歌を歌うことで授業の始まりを伝える。</p> <p>○ローリングボードの動きが変化する合図として, トライアングルを鳴らす。(T3)</p> <p>○回転の向きを変える時には, 一度しっかり動きを止めてから動かすようにする。</p>

<p>いろいろな楽器を使って 「きれいな音だな」 A・C児：鉄琴，太鼓 B児：オーシャンドラム</p> <p>5 振り返り</p> <p>6 あいさつ</p>	<p>○歌に合わせて，ドラムを2つ同時にまたは1つずつ時間差で提示する。終わりを意識できるように，カウントをしたり，拍手をしたりする。 ☆ドラムを両手で同時に叩いたり，片手ずつ叩いたりすることができたか。</p> <div data-bbox="504 478 869 635" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教師の働き掛けや歌に応じて，鉄琴と太鼓を順番に鳴らす。</p> </div> <p>○活動の見通しを，歌や指さし，終わりの目印等で伝える。「シュー，トン」等の言葉掛けを行う。 ☆教師の働き掛けや歌に応じて，鉄琴と太鼓を順番に鳴らすことができたか。 ○児童の活動を楽器や道具を提示したり，歌の一部を歌ったりして振り返る。 ○決まった言葉掛けや，動作で姿勢を整えることを伝える。</p>	<p>り，教師と一緒に手を動かしたりして鳴らすことで，音に気付けるようにする。腕を緩めて触れ，音や振動を感じられるようにする。 ☆楽器の音や手触り，振動に気付き，表情を変化させることができたか。</p> <div data-bbox="952 470 1348 662" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>適度な緊張で腕を緩めて楽器に触れ，教師と一緒に身体を前後に動かして鳴らす。</p> </div> <p>○あぐら座位の後方介助で行い，背中や肩周りがリラックスして楽器に手を伸ばせるようにする。 ☆適度な緊張で腕を緩めて楽器に触れ，教師と一緒に身体を前後に動かして鳴らすことができたか。 ○児童の活動を楽器や道具を提示したり，歌の一部を歌ったりして振り返る。 ○座位保持いすで姿勢を整え，決まった言葉掛けや身体接触等で終わりを伝える。</p>	<p>で，重心の移動や右手の使用を促す。右手では音が出にくいいため，児童が手を出したら教師がタンバリンを当てて音が鳴るようにする。(T1) ☆正中線を越えて左手を伸ばしたり，右手も自ら出したりしてドラムを叩くことができたか。</p> <div data-bbox="1438 470 1807 622" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>歌や教師の働き掛けに応じて，鳴らし方を理解して複数回鳴らす。</p> </div> <p>○鳴らす動きやタイミングを歌や動作等で伝える。ローラーを置く位置を調整し，スムーズに音が出せるようにする。 ☆歌や教師の働き掛けに応じて，鳴らし方を理解して複数回鳴らすことができたか。 ○児童の活動を楽器や道具を提示したり，歌の一部を歌ったりして振り返る。 ○決まった言葉掛けや動作で姿勢を整えることを伝える。</p>	<p>○エナジーチャイムを鳴らすことで授業の終わりを伝える。</p>
---	--	---	---	------------------------------------

○小学部研究協議のまとめ

< 討議の柱 >

- 児童生徒の実態に応じた目標設定がなされていたか。
- 児童生徒が主体的に活動したり考えたりする場面にどのような工夫があったか。
- 授業の中で児童生徒のどのような主体的な学びが見られたか。

1 授業者から

2学期より計8回の授業を繰り返し行ってきた。児童は参加者がいることで、気持ちが高ぶったり、緊張したりしていたが、普段より意欲的に課題に取り組んでいた。

ローリングの活動では、児童は、しっかり手をついてバランスをとったり、ゆれを感じながら表情がゆるんでいたりと、頭を振らずに落ち着いて乗ることができたりしていた。

ドラムやタンバリンを叩く活動では、両手で交互に叩くことができたり、自ら麻痺している右手を出し、タンバリンを叩こうとしていたり、声は出なかったが、笑顔が見られたりして、意欲的であった。

最後の活動では、教師の歌に応じて、自ら楽器を鳴らすことができた。活動前に発作があった児童がいたが、少し待ち、ゆるんだ状態で、活動することができた。

2 グループ討議

3グループに分かれK J法を使って討議の柱に沿って討議した。

(1) 児童生徒の実態に応じた目標設定がなされていたか。

- 児童の実態に応じて目標や活動の内容を変えていた。
- 児童の実態に応じて楽器を変えていた。
- 児童の実態に応じて、児童のペースを大事にされた目標設定であった。

(2) 児童生徒が主体的に活動したり考えたりする場面にどのような工夫があったか。

- 活動ごとに歌があったり、撥ではなく持ちやすいローラーで音を鳴らしたりするなどの工夫をしていた。
- 教師の触れ合いや「やるよ」という言葉掛けがわくわく感をもたせていた。
- 鉄琴の上をころがす位置が目立つように黒い紙で囲われ、集中できるようにしていた。
- 椅子に背もたれがあったり、足置きがあったり、姿勢に気をつけて活動に集中できるような環境があった。
- ローリングの活動では、トライアングルの音で回転方向を変え、意識付けをしていた。
- 教師が「3・2・1・ゴー」と言葉掛けをしたり、始終笑顔で語りかけたり、褒めたり、次の動きを待ったりして主体的な動きを引き出していた。
- 順番を見直したり、児童の近いところで楽器の音を鳴らしたりして児童の意欲付けがされていた。

- 耳元で楽器の音を鳴らしたり，後ろに楽器を隠して音を鳴らしたりして，児童にわくわく感を与え，音を効果的に使用していた。
 - 歌のテンポが単調なので，遅いのや速いのもあってよい。
 - メリーゴーランドは下にマットを敷くなど安全面に配慮した方がよい。
- (3) 授業の中で児童生徒のどのような主体的な学びが見られたか。
- 自らが鉄琴を鳴らしたり，ドラムを叩いたりしていた。
 - 自分で乗り方を考えて，一人でローリングに乗ったり降りたりすることができた。
 - 友だちの動きを見て，自分もやろうとしていた。
 - 先生の歌が終わるまでよく聞き，楽器を鳴らしていた。
 - ハンドドラムやタンバリンのどちらかを選択させるのもよい。

3 質疑応答

- なぜ，どの歌も単調なのか。
児童がアップテンポの曲を聴くと，気持ちが盛り上がり，落ち着かなくなるので，アップテンポの曲は選ばず，比較的ゆっくりで，興奮しないものにした。

4 指導助言の内容

**【指導助言者：広島県教育委員会事務局 教育部 特別支援教育課
指導主事 内田 俊行】**

良かった点

- T1が始終笑顔で，笑いながらしゃべることが児童に安心感を与える。初めの学習指導案から，変更をして，3つの場面の中から山場を考えていた。二人の児童は，コロコロの自動車を使い，あと一人はオーシャンドラムの楽器に変えて，活動内容を工夫していた。提示の仕方に児童がわくわくさせるようなしかけがあった。
- T1が後ろ手に隠して楽器を鳴らした時，児童は「あーあ，あれだ！」と思い，過去の経験と結び付けて「やりたい。」と思わせている。
- 1番に指名された児童が1番に活動することを拒否し順番を変えたが，3番になっても，周りの人がいても，「やろうか」という意欲にさせていた。
- 最後の活動では，どの児童も意欲的に活動できたと思う。タンバリンを叩いて，一度立ち止まって，また叩いて，鉄琴を最後には2往復して，手をたたいていた児童がいたり，オーシャンドラムの音をよく聴いて，「ザー。」という音で「もっと聴きたい。」という笑顔が見られた児童がいたり，初め鉄琴を見ずにやっていた児童が，最後になると鉄琴をよく見て，自らローラーを持って鳴らすことができたりしていた。

改善点

- 児童がお互いに見て学ぶことも大切だが，児童の活動量を増やすための工夫が必要である。友達が活動している時に，見ている児童に「チン」とトライアン

グルを鳴らす役割をもたせたり、見ている児童も同時に同じ活動を行ったりすることなどが考えられる。

- 年間指導計画を作成していく時、この単元の目標を達成し、身に付けさせるための時間設定を考えたり、児童の意欲や思考が高まっていくための工夫などを考えたりすることが大切である。

② 中学部学習指導案及び研究協議のまとめ

○ 中学部学習指導案

国語科学習指導案

指導者 小川 佳津恵 (T1)
北野 健一 (T2)

- 1 日時, 場所 平成 29 年 9 月 29 日 (金) 3 校時 (10:35~11:20)
中学部 2 年 1 組教室
- 2 学部, 学年, 学級 中学部 第 2 学年 1 組 II 類型 2 名
- 3 単元名 表現しよう③
- 4 単元設定の理由

○ 生徒観

本学級には、肢体不自由と知的障害を併せ有する生徒 2 名 (男子 1 名, 女子 1 名) が在籍している。2 名とも II 類型 (知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の教育内容を取り入れた教育課程) を履修している。

生徒 A は、脳性麻痺による体幹機能障害を有する。日常生活は車椅子を使用し、自走して移動することができる。隣接する施設に長期間入所しており、施設内や学校内では社会的でいろいろな人に話し掛けたり、話し掛けに応じたりすることができる。しかし、自分の興味・関心のある内容を一方的に話したり、会話中では急に話題を変えたりすることが多い。また、自分の思いが受け入れられないときや、初めて遭遇することに対して自信がないときなどには、興奮状態になり、こだわりが強くなって否定的な言葉を繰り返し言うことがある。親しい相手に対しては素直に気持ちを表現することができず、反対の言葉を投げかけてしまうことがある。納得できるルールを決めて課題に取り組んだり、挑戦し成功する体験を重ねたりすることで、少しずつ相手の言葉を受け入れ、気持ちの切り替えが早くなるなどの様子が見られつつある。国語科では、人の名前に使われる漢字などの書き取りや語彙についての学習意欲は高い。作文や日記などを書く際、既成の事実を文章で表現することができるが、自分が感じたことや表現を工夫して文章を構成することは難しい。

また、これまでに習得している言葉や語彙を活用し、場に応じた会話をしたり、自分の気持ちを素直に、会話、文章及びコミュニケーションの中で表現したりすることに課題がある。

生徒Bは、脳性麻痺による体幹機能障害を有する。校内では座位保持装置付き車椅子を使用している。身体の緊張と四肢の不随意運動があり、特に上肢のコントロールが難しい。そのため、机上での書く活動や指先を使った活動などについて、教員が代替して行うことが多い。自宅生であり、昨年度、市内の小学校から本校に入学してきた。人と話をすることは好きで、入学当初は自分から人に話し掛けることが少なかったが、現在は中学部の生徒や教職員等、身近な人との会話を楽しんでいる。感性が豊かで、場に応じた会話をすることや、相手の立場に立って言葉を選びながらコミュニケーションをとることができる。しかし、小学校から現在まで、ほぼ教員と1対1で学習する環境で過ごしてきたため、集団の中では受け身になりがちで、全体の中で意見を求められるときには、なかなか発言できない。国語科では、漢字の読みや語彙についての学習意欲は高く、小学校中学年程度の漢字を読むことができる。しかし、熟語の意味を理解し、使い分けるまでには至っていない。また、小学校で学習した文法の基本的事項はおおむね理解しており、時系列で事実を並べたり、感じたことを「楽しかった」等、平易に表現したりすることはできるが、表現を工夫して文章を構成したり、意思を自分から相手に伝えたりすることについて課題がある。

○ 単元観

本単元は、特別支援学校学習指導要領の知的障害者である中学部生徒に対する国語の教育内容（１）「話のおよその内容を聞き取る」、（２）「見聞きしたことや経験したことなどを相手に分かるように話す」にあたる。教材としては「慣用句」を取り上げる。簡単な語句や文に興味を持ち、意味を理解して生活の中で表現豊かに使用する力を身に付けさせることをねらいとする。慣用句は二つ以上の言葉が組み合わさって別の意味になったり、何かのたとえに使われたりする言葉である。「腹が立つ」「頭にくる」など、長年人々の間で習慣的に使われてきた言葉であり、これらを「慣用句」として意識はしないまでも、生徒にとっては、日頃から耳にする身近な言葉である。また、身体の一部の名称を使った慣用句は非常に数が多く、すでに何気なく使用しているものもあれば、これまでに聞いたことがないものもあると予想される。いろいろな慣用句に出会うことにより、知識欲が刺激され、学習意欲の向上につなげることができる。また、例えば「耳をふさぐ」（意味：聞かないようにする）、「目を丸くする」（意味：おどろく）など、身体の一部の名称を使用した慣用句は、体の動きや状態を表しているため、その状況を想像しやすく、転じて使用される言葉の意味を捉えやすいものが多い。ある慣用句からその状況を想像し、言葉の意味を理解するといった「分かる喜び」を味わうことができる。さらには、いろいろな場面を設定して、文章や会話文として学習した慣用句を使って表現させることで「考える楽しさ」や思いを「伝える大切さ」を学ぶことができる。

○ 指導観

本単元は、言葉の習得を促す学習から、慣用句を使った短文を作る活動へとつなげていく。「慣用句」＝「難しい」という観念を持たせることなく学習をすすめた

無数にある慣用句の中で、身体の一部の名称を使った慣用句を取り上げることとし、単元の中では30程度を扱う。導入として、身体とその動きが想像しやすい慣用句（例：頭をかかえるー意味：困る）等を扱い、ボディイメージと慣用句の意味がつながりやすいよう配慮する。また、イメージが持ちにくい慣用句（例：顔が広いー意味：顔や名前が広く知られている）などを取り上げる際には、4コマ漫画やイラストなどを用い、場面や状況を視覚から捉えて言葉と意味が理解できるようにする。また、二つの言葉から成る慣用句について、「上の言葉」「下の言葉」「意味」を書き分けたカードを用い、ゲームを行いながら言葉の定着をはかりたい。意味カードを基に二つの言葉を合わせて慣用句を完成させることで、言葉と意味の結び付きが理解できるようにする。その際、上肢を動かす活動が含まれるが、カードの並べ方を工夫して、カードの位置を口頭で伝えることができるものも用意し、生徒が主体的に意思表示をしたり、必要な支援を求めたりする力を養うことも併せて、活動をすすめたい。

また、慣用句を用いて短文を作る活動では、イラストや4コマ漫画の吹き出しにセリフを入れるなどして、「考える楽しさ」を体験させたい。さらに、お互いの短文を発表し合い、いろいろな表現があることを知ることで理解を深め、「伝える大切さ」が感じられるように工夫する。

5 「目指したい姿」と「主体的な学び」

生徒	目指したい姿	主体的な学び
A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的な学力が身に付いており、日常生活の中で活かすことができる。 ・社会的常識を理解したり、人との約束を受け入れたりして、周囲の人と適切な方法でコミュニケーションをとることができる。 ・未知の世界にも目を向け、視野を広げて、より豊かに生活しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に自分から取り組もうとする。 ・課題やテーマに沿って考え、相手に伝わるように表現する。 ・意見を自分で決める。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な基礎的な学力が身に付いており、日常生活の中で活かすことができる。 ・自分の気持ちや要望を相手に分かるように伝え、問題を解決しようしたり、人間関係を広げたりする。 ・興味・関心のあることを生活に取り入れ、より豊かな生活にしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題に自分から取り組もうとする。 ・困難を感じることは、自分から要望し、支援を求める。 ・自分の考えや意見を積極的に発言する。

6 単元の目標

文字を使って表現することができる。

身近な人の話を聞いて、内容のあらましを知ることができる。

7 指導計画（全6時間）

- 第1次「慣用句を知ろう」・・・・・・・・・・3時間
- 第2次「慣用句を使って表現しよう」・・・・・・・・・・3時間（本時5/6）

8 本時の目標

- 全体の目標
「慣用句」について理解し、文の中で使うことができる。

- 個々の目標と評価規準（○自立活動の目標 ◎教科の目標）

生徒	これまでの様子	目 標	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな内容や難しい、自信がないと感じたことに対して受け入れられず、興奮状態になる。 ・気になる情報があると、そのことにとらわれて思考がそれ、集中できなくなることがある。 ・問題プリントやカードゲームなどには、意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者の言葉掛けやヒントを基に、自ら課題に取り組むことができる。 ◎慣用句を用いて短文をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者の言葉掛けやヒントを基に、自ら課題に取り組んでいる。 ◎慣用句を用いて短文をつくり発表している。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で自分の意見を積極的に発言することが少ない。 ・活字が好きで、本や雑誌、配布プリントなどに興味を示し、読むことができる。 ・問題プリントやカードゲームなどには、意欲的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な内容を自分で考えて、指導者に求めることができる。 ◎慣用句を用いて短文を作り、自ら発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な内容を自分で考えて、指導者に伝えている。 ◎慣用句を用いて短文を作り、自ら発表している。

9 準備物

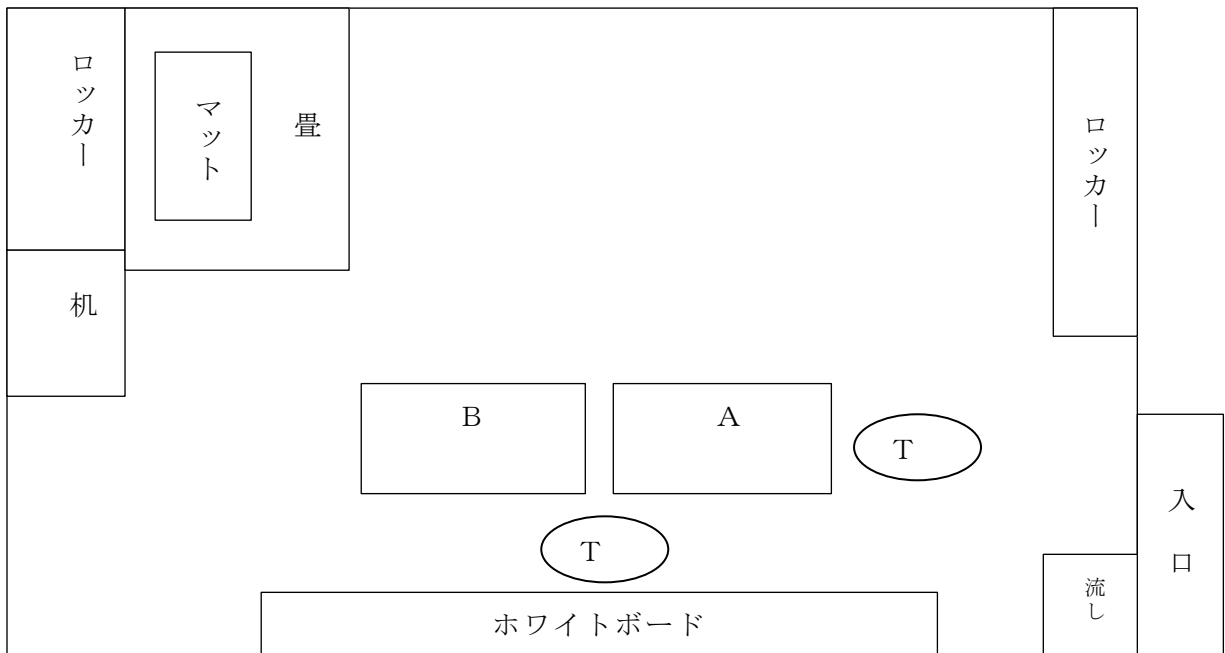
イラスト，4コマ漫画，吹き出し，慣用句カード，慣用句一覧表，提示用ボード

10 学習過程 別紙参照

11 評価の観点

- 指導上の評価
 - ・慣用句を文の中に用いて表現できるようにするための言葉掛けや指導ができたか。（生徒A）
 - ・慣用句を用いて短文を作るための言葉掛けや指導ができたか。（生徒B）
 - ・自ら発表するための言葉掛けや指導ができたか。（生徒B）
- 自立活動の内容に基づく評価
 - ・姿勢保持など、生徒に合った学習環境になっていたか。（生徒A・B）
 - ・心理の安定をはかり、学習意欲を引き出すことができたか。（生徒A）
 - ・支援が必要な内容は自分で考えて、指導者に伝えることができる教材であったか。（生徒B）

12 配置図



別紙 学習過程

学習活動	・指導上の留意点, □課題 (網掛け: 主体的な学び), ○支援, ☆評価		
	A	B	全 体
<p>1 はじめのあいさつ (1分)</p>	<p>○車椅子での姿勢を調節し, ブレーキを掛けて, 安定した姿勢をとるよう言葉掛けをする。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学習の始まりを意識する</p>	<p>○座位保持装置付き車椅子での姿勢を調節し, 安定した姿勢がとれるようにする。</p>	<p>○教室内の学習環境を確認する。 ○授業の前に排泄, 水分補給, 姿勢の調節をしておく。(T 1, T 2) ○車椅子にブレーキをかけ, 姿勢を安定させて活動に入る。(T 1)</p> <p>・生徒同士がリラックスして始められるように挨拶を促す。(T 1)</p>
<p>2 本時の予定を知る (1分)</p>	<p>☆お互いの準備が整ってから, 挨拶を行うことができたか。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学習活動 (慣用句の復習, カードゲーム, 短文作り) を知り, 「慣用句を使って短文を作り, 発表する」を課題とすることを確認する。</p>	<p>☆お互いの準備が整ってから, 挨拶を行うことができたか。</p>	<p>○学習活動をホワイトボードに示し, 本時の課題と目標を確認させる。(T 1)</p>
<p>3 これまでの学習を振り返る (2分)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学習した「慣用句」について, 一覧表を見ながら思い出す。</p> <p>☆慣用句や意味を発言できたか。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">学習した「慣用句」について, 一覧表を見ながら思い出す。</p> <p>☆慣用句や意味を発言できたか。</p>	<p>・身体の名称を記入した掲示物等を用意する。 ・イラスト, 4コマ漫画などを用意して, 学習意欲を高める。</p>
<p>4 慣用句カードを使って, ゲームをする (12分)</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「意味」をもとに慣用句の「上の言葉」や「下の言葉」を探し, 見つけることができる。</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「意味」をもとに慣用句の「上の言葉」や「下の言葉」を見つけ, 自分から伝えることができる。</p>	<p>・手元に, 学習した慣用句の一覧表を提示し, 集めたカードが正解かどうか不安な場合は, 見て確かめることができるようにする。</p>

学習活動	・指導上の留意点, □課題 (網掛け: 主体的な学び), ○支援, ☆評価		
	A	B	全 体
5 慣用句を用いて短文を作る (20分)	<p>・自分でできるところは, 自分の力でやり切るように促す。</p> <p>☆指導者の言葉掛けやヒントを基に, 自ら課題に取り組むことができたか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">慣用句を用いて短文を作る。</p> <p>○慣用句を文の中に用いて表現するための言葉掛けや支援をする。</p> <p>☆指導者の言葉掛けやヒントを基に, 自ら課題に取り組むことができる。</p> <p>☆慣用句を文の中に用いて表現することができたか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作った短文を発表する。</p>	<p>○生徒の意思表示を大切にし, 求められたことに応じる。(T1)</p> <p>☆支援が必要な内容を自分で考えて, 指導者に求めることができたか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">慣用句を用いて短文を作る。</p> <p>○慣用句を用いて短文を作るための言葉掛けをする。</p> <p>○代筆する。(T1)</p> <p>☆支援が必要な内容を自分で考えて, 指導者に求めることができたか。</p> <p>☆慣用句を用いて短文を作ることができたか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作った短文を, 自分から発表する。</p>	
6 短文を発表する (5分)	<p>○発表を聞くよう, 言葉掛けをして, 聞くことに集中させる。</p> <p>☆発表を聞いたり, 自分から発表したりできたか。</p>	<p>○自ら発表するための言葉掛けをする。</p> <p>☆自分から発表することができたか。</p>	<p>○イラストや4コマ漫画により, いろいろな場面や状況を設定する。</p> <p>・吹き出しの中のセリフや短文を考えさせる。(T1)</p> <p>○慣用句一覧表から適切な慣用句を選ばせるなどして, できるだけ自分の力で, 短文を完成させるようにする。(T1), (T2)</p>
7 授業の感想を言う (3分)	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">本時の活動を振り返る</p> <p>☆本時の課題と目標が達成できたか。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">本時の活動を振り返る</p> <p>☆本時の課題と目標が達成できたか。</p>	<p>○生徒が「聞く・話す」学習を主体的に行えるよう, 「聞くとき・話すとき」のルールを伝える。</p>
8 終わりのあいさつ (1分)	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習の終わりを意識する</p>		

○中学部研究協議のまとめ

<討議の柱>

- 児童生徒の実態に応じた目標設定がなされていたか。
- 児童生徒が主体的に活動したり考えたりする場面にどのような工夫があったか。
- 授業の中で児童生徒のどのような主体的な学びが見られたか。

1 授業者から

二人とも慣用句に興味をもっており、学習したことを日常生活でも活用している。例えば、修学旅行のお土産について「これは高いから手が出ないね」と話すとすぐに意味を理解し、納得している様子が見られる。Aは日常の会話でも慣用句を使った表現を使用しているが、書き表すことが苦手である。授業で文章を書く課題になると自信がなく、気持ちが不安定になることもあるため、適切なサポートが必要である。Bは不随意運動があるため、2学期から上肢の動きを止めるため重みのあるサポーターをつけて授業を受けている。疲れなどが出ないか本人の様子を見ながら使用しているところである。

2 グループ討議

3グループに分かれKJ法を使って討議の柱に沿って討議した。

- (1) 児童生徒の実態に応じた目標設定がなされていたか。
 - しっかりできていた。それぞれの生徒が発表していた。
- (2) 児童生徒が主体的に活動したり考えたりする場面にどのような工夫があったか。
 - 慣用句の一覧表があることで自信をもって答えることができていた。
 - カードゲームで楽しく慣用句を学習できていた。
 - カードゲームの際に正誤をもう一人の生徒が判定し、二人共が学習できる工夫がされていた。音の出る正誤表示グッズを使い、楽しく評価できるように工夫されていた。
 - 発表⇒確認の流れを二人がお互いに行うことで学習が深められていた。
 - 生徒同士で評価することで主体的に活動できていた。
 - 生徒が日常生活の体験から慣用句を作り、活用している様子が見られた。
 - 考えるヒントとなるような言葉掛けがされていた。
 - 既習事項と本時の学びのつながりが見られた。
 - 生徒同士のやりとりが見られた。
- (3) 授業の中で児童生徒のどのような主体的な学びが見られたか。
 - 授業の始まりの際に生徒がすぐにはじめのあいさつをしていた。
 - 分からない時は自分で慣用句の一覧表を見て確かめていた。
 - 慣用句の一覧表を確認しながら確実に答えを出していた。
 - 慣用句を使った短文作りで自分の体験を基に説明したり文章を作ったりしていた。
 - 自分で作った文を確かめながらその時の状況を思い出して笑っていた。

3 質疑応答

○イラストや漫画を使用しなかったのはなぜか。

これまでの授業で使用してみて絵が妨げになっていると感じたので、使用しなかった。

○Aがこれまでの学習を思い出し、「頭が上がらない」と繰り返し言っていた。そのまま授業を進めていたが、それは取り上げたらこだわってしまうからか。

そのことから抜け出せないことがあるので採り上げなかった。認めてあげれば納得したかもしれないが、やってみないとわからない。

○Aと普段接していて明らかに日常で慣用句を使うようになったと感じている。

4 指導助言の内容

【指導助言者：広島県立教育センター特別支援教育・教育相談部

指導主事 濱崎奈緒】

よかった点

○よい雰囲気で行われていた。生徒が意欲的に参加していた。

○実態に応じた目標設定がされていた。

○慣用句の一覧表が準備されており、「考えて、確認して、カードを取る」ための手立てが準備されていた。

○これまでに学習した内容が定着している様子が見られた。

改善点

○主体的な活動

・生徒に主体的に活動させたり、考えさせたりするために、指導者の支援が先回りしていないか考えていく必要がある。

・指導者の立ち位置や言葉掛けは適切か、再検討するとよい。

○選択

・短文作成の課題の際に、生徒が使う慣用句を資料の中から選ぶことが難しい様子が見られた。

・選択肢として提示された量が多かったのか、又は、慣用句の意味をイメージできなかったのかなど、なぜ選択できなかったのかについて検証するとよい。

・生徒が慣用句の意味をイメージしにくい様子が見られたため、意味を表すイラストなどの支援があるとよかった。

○板書の構造化

・学習の流れが見える形で、板書を行うとよい。

○学習のめあて

・「めあて」を示し、それに沿って「振り返り」ができるようにする。

・めあては、「慣用句を用いて～」など具体的に示すと分かりやすい。

○学習の振り返り

・何を学習した明確にするために、めあてに沿って振り返らせる。併せてできていることの評価を行う。

③ 高等部学習指導案及び研究協議のまとめ

○高等部学習指導案

社会科学習指導案

指導者 友澤 浩樹 (T1)
中本 智恵子 (T2)

- 1 日時, 場所 平成29年9月29日(金) 3校時(10:35~11:20)
高等部2年1組教室
- 2 学部, 学年, 学級 高等部第2学年1組 重複障害学級Ⅱ類型 2名
- 3 単元名 私たちのくらしと公共施設

4 単元設定の理由

○ 生徒観

本学級(重複障害学級)は肢体不自由と知的障害を併せ有する男子生徒2名が在籍し、知的代替の教育課程のⅡ類型で学習している。生徒Aは自宅生で、生徒Bが若草園生である。Aは東広島市内の中学校、Bは呉市内の中学校から本校に進学した。

生徒Aは脳性麻痺による体幹機能障害と両上肢機能障害を有する。日常生活においては、座位保持装置付車椅子を使用している。日常の食事、着替え、排泄は全介助である。

周囲の環境等の把握については、視覚からの情報を聞いて理解しようとする。暗記が得意である。概念の理解等については、色や大小、長短、数量、時間等の基本的なことについては概ね理解できているが、それらを応用することは難しい。学校生活において、文字等を書くときは、鉛筆を補助具に装着し、左手で補助具を握り、指導者が手を添えて書いている。

生徒Bは脳性麻痺による体幹機能障害と両上肢機能障害を有する。日常生活においては、座位保持装置付車椅子を使用している。着替え排泄は全介助である。

概念の理解等については、色や大小、長短については理解できている。計算については足し算、引き算は一桁の計算は概ね理解できるが、二桁や繰り上がり、繰り下がり
の計算は難しい。文字等を書く時は、自分で右手で鉛筆を握って書いている。

これまでの社会の授業では、物流の仕組みや、輸送方法、宅配便の仕組み、仕事の種類(第一次産業、第二次産業、第三次産業)等について学習してきた。授業参加態度は2名とも社会の授業を楽しみにしており、「○○君すごいね!よくできたね」と声掛けをして成功体験を共有している。

Aは家ではニュース等をよく視聴し、日々のニュースや話題のニュースに興味を持っている。それらのニュースの内容等について、朝の会等で話しをしたりしている。社会の授業でも指導者からの問い掛けに対して、積極的に答えようとしている。Bは日々のニュース等に対してはあまり関心をもっていないが、自動車等の乗り物に対して非常に興味、関心をもっている。これまでの社会科の学習では、輸送方法や、宅配

便についての学習時には、「トラック」等の用語や写真が出てきたときは、興味、関心をもって積極的に答え、笑顔で授業を受けていた。

○ 単元観

本単元は、「公共施設の働きを理解し、それらを適切に利用する」ことに観点を置き、取り組む。指導内容は「銀行の仕事、郵便局の仕事について」である。公共施設が社会生活をより快適に営むのに必要なものであることを知り、生徒が自分の生活に利用することができるようにすることを目的とする。公共施設や公共物、公共交通機関について理解を深めることは、現在、そして将来の生活を豊かにするために大切なことである。

銀行や郵便局等の金融機関の利用については、日常生活に深く結びついているが、生徒は実際に金融機関を利用したことはほとんどない。金融機関の仕事について知ることによって、お金の大切さを理解することができる。また、金融機関の業務について知ることによって、お金を預けることにメリットがあることも理解させたい。それによって生活を豊かにすることが期待できる。

○ 指導観

本単元では金融機関について学習するので、導入部分で身近にあるATM【現金自動預払機】について取り上げる。生徒たちはATMを見たことはあるが、実際にはATMを使用した経験はない。最初にATMでどのようなことができるのか、どのような機能があるのかについて考えさせたい。ATMの機能等について考えることによって、銀行での窓口業務が、ATMでできることに気づかせたい。その後、模擬用のATM画面を使ってATMの操作体験をする。その際にお金を引き出す時は、キャッシュカード、暗証番号が必要であることを説明する。特に暗証番号は他人に知られないように気をつけなければいけないことを説明することによって危機意識をもたせたい。その次に銀行にお金を預ける理由について考えさせる。具体的には、銀行にお金を預けることによってどのようなメリットがあるのかを考えさせたい。銀行にお金を預けることによってお金が貯まる、増える等のメリットがあることを気づかせたい。生徒にとって、銀行は日常生活において、今までほとんど利用したことがないので、銀行について、イメージをもちにくいと思うので、写真や預金通帳やキャッシュカード、定期預金のチラシを提示してイメージをもたせたい。

実際の指導に当たっては、見通しをもって授業を行うことができるように、授業開始時に本時の授業の流れを説明する。また、目標を明確に示して読ませることにより、目標を意識させながら授業に取り組ませる。生徒にとっては、金融機関の学習に対しては「難しいもの」という意識をもっているかもしれないので、苦手意識を払拭するために、学習に対する意欲や興味を引き出し、生徒が主体的に、楽しく取り組めるように授業を進めていきたい。具体的には、興味をもちやすいように写真や預金通帳等を活用して説明していききたい。質問に対して答えることができたときは、「よくできたね」としっかりと褒めて、生徒に自信を持たせていきたい。

5 「目指したい姿」と「主体的な学び」

生徒	目指したい姿	主体的な学び
A	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路を見据え、物を握ったり、掴んだりすることができるようになる。 ・日常生活において必要な知識、学力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない時、自分でできない時に、自分から支援要請ができる。 ・課題に取り組み、わからない問題等にも諦めずに取り組む。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・思い通りにならない時に気持ちを切り替えることができる。 ・周りの人に自分の思いを適切に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを落ち着けて、積極的に課題等に取り組む。 ・周りの人と協力して自分の役割等を遂行していく。

6 単元の目標

- ・金融機関（銀行）や郵便局の利用について理解を深める。

7 指導計画

〈全 29 時間〉

第1次 公共交通機関の利用マナー，障害者割引について 8時間

第2次 銀行の仕事，郵便局の仕事について 7時間（本時 1/7）

第3次 役所の主な手続き，国民年金，障害者年金について 8時間

第4次 警察・消防の働きと通報のポイントについて 6時間

8 本時の目標

○ 全体の目標

- ・ATMでどのようなことができるのかについて考え，発表することができる。
- ・銀行にお金を預ける理由について考え，発表することができる。

○ 個々の目標と評価規準（○自立活動の目標 ◎教科の目標）

生徒	これまでの様子	目 標	評価規準
A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学校生活の学習では、何事にも一所懸命諦めずに取り組むことができる。 ・これまでの社会の学習では、物流の仕組みや、輸送方法、宅配便の仕組み、仕事の種類等について学習してきた。日頃のニュース 	<ul style="list-style-type: none"> ○質問等に対して、わからない場合は自ら「わかりません」と言うことができる。 ◎ATMでどのようなことができるのかについて考え，発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わからない場合は、自ら「わかりません」と言うことができたか。 ◎ATMでどのようなことができるのかについて考え，発表することができたか。

	等をよく視聴しており、世の中の時事的な動きをよく理解しているが、社会的な知識は理解が難しい面がある。	◎銀行にお金を預ける理由について考え、発表することができる。	◎銀行にお金を預ける理由について考え、発表することができたか。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学校生活においては、社会の授業を楽しみにしている。 ・社会の学習の理解度は、社会的な知識の理解は難しいが、1学期の社会の学習では、輸送方法や宅配便の学習では、「トラック」等の用語や写真が出てきた時は、興味・関心をもって積極的に答えていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○質問等に対して、わからないときは、指導者に支援を求めることができる。 ◎ATMでどのようなことができるのかについて考え、発表することができる。 ◎銀行にお金を預ける理由について考え、発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わからない時は、指導者に支援を求めることができたか。 ◎ATMでどのようなことができるのかについて考え、発表することができたか。 ◎銀行にお金を預ける理由について考え、発表することができたか。

9 準備物

- ・教科書、預金通帳、キャッシュカード、定期預金募集等のチラシ、模擬用のATMの画面

10 学習過程 別紙参照

11 評価の観点

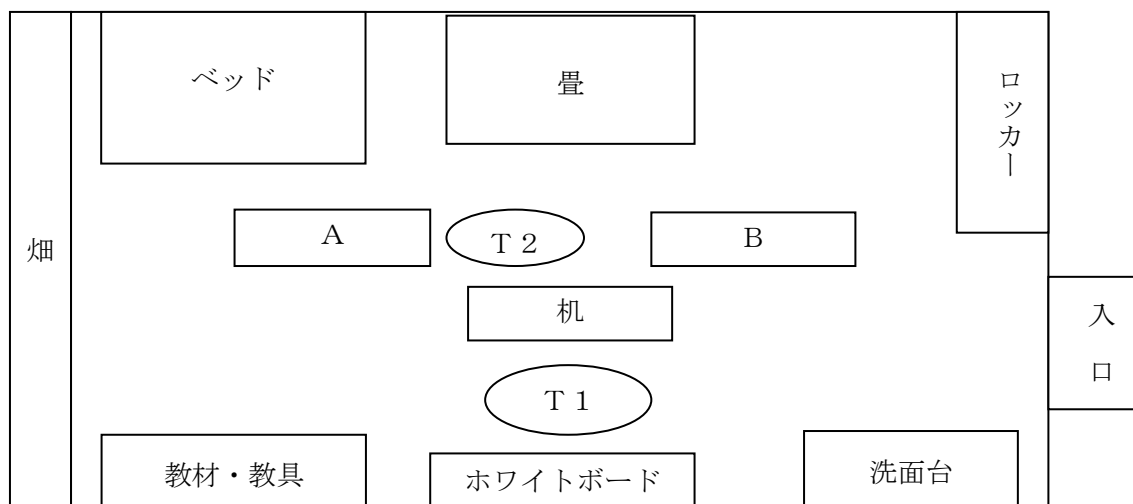
○ 指導上の評価

- ・ATMの機能について理解し、発表することができたか。(生徒A, B)
- ・お金を銀行に預ける理由について理解し、発表することができたか。(生徒A, B)
- ・教材教具は生徒の実態を踏まえて、適切であったか。(生徒A, B)
- ・生徒への質問の仕方は適切であったか。(生徒A, B)

○ 自立活動の内容に基づく評価

- ・生徒の実態に応じた目標が設定されていたか。(生徒A, B)
- ・姿勢保持など、それぞれの生徒の実態に応じた学習環境になっていたか。(生徒A, B)

12 教室内配置図



別紙 学習過程

学習活動	指導上の留意点 (□課題, ■主体的な学び, ○支援, ☆評価)		
	A (T2)	B (T1)	全体
1 あいさつ。(1分)	○座位保持装置付車椅子の姿勢を調整し、安定した姿勢が取れるように調整する。 ○日直の場合は、元気よくあいさつを行うように言葉掛けする。	○座位保持装置付車椅子の姿勢を調整し、安定した姿勢が取れるように調整する。 ○日直の場合は、ゆっくりとあいさつするように言葉掛けする。	○授業の前に、排泄、水分補給、姿勢の調整をしておく。(T1, T2) ○授業の前に本時は参観者が居ることを予告する。(T1, T2) ○姿勢を整えるように言葉掛けし、授業を始める環境を整える。(T1)
2 本時の予定を知る。(2分)			○見通しがもてるようにホワイトボードに記入する。(T1)
3 本時の目標を言う。(1分)			○目標をホワイトボードに記入し、全員で声に出して読ませることで、本時の目標を確認させる。(T1)
4 ATM【現金自動預払機】で出来ることについて考え、ATMを操作する。(20分)	ATMの写真を見て、ATMでどのようなことができるのかを考え発表する。 ☆お金を預ける、引き出す、送金する等の機能について答えることができたか。 模擬用のATM画面を使って、ATMの操作体験をする。	ATMの写真を見て、ATMでどのようなことができるのかを考え発表する。 ☆お金を預ける、引き出す、送金する等の機能について答えることができたか。 模擬用のATM画面を使って、ATMの操作体験をする。	○銀行の写真等を見せて、銀行の窓口で行う業務が、ATMで出来ることを説明する。(T1, T2)

<p>5 銀行にお金を預ける理由について考え、発表する。(15分)</p> <p>8 振り返りをする。(5分)</p> <p>9 あいさつ。(1分)</p>	<p>☆模擬用のATM画面を使って操作することができたか。</p> <p>なぜ銀行にお金を預けるのか？について考え、発表する。</p> <p>○考えがうかばない時は、T2がヒントを与える。</p> <p>☆銀行にお金を預ける理由について発表することができたか。</p> <p>自分で感想を述べる。</p> <p>☆自分で感想を言うことができたか。</p> <p>○日直の場合は、元気よくあいさつを行うように言葉掛けする。</p>	<p>☆模擬用のATM画面を使って操作することができたか。</p> <p>なぜ銀行にお金を預けるのか？について考え、発表する。</p> <p>○考えがうかばない時は、T1がヒントを与える。</p> <p>☆銀行にお金を預ける理由について答えることができたか。</p> <p>自分で感想を述べる。</p> <p>☆自分で感想を言うことができたか。</p> <p>○日直の場合は、ゆっくりあいさつするように言葉掛けする。</p>	<p>○実際のATMの操作はキャッシュカードが必要なこと、暗証番号を入力することを説明する。特に暗証番号は他人に知られないように気をつけなければいけないことを説明する。(T1)</p> <p>○難しい場合は、銀行にお金を預ける一般的な理由として、病気や災害などへの備え、子どもの教育資金、旅行やレジャー等の理由を説明する。(T1, T2)</p> <p>○銀行にお金を預けるメリットについて説明する。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全である、お金が貯まる、増える等について説明する。 <p>○目標を達成できたか確認する。(T1)</p> <p>○日直にあいさつをするように言葉掛けする。(T1)</p>
--	--	--	--

○高等部研究協議のまとめ

<討議の柱>

- 児童生徒の実態に応じた目標設定がなされていたか。
- 児童生徒が主体的に活動したり考えたりする場面にどのような工夫があったか。
- 授業の中で児童生徒のどのような主体的な学びが見られたか。

1 授業者から

生徒は緊張していたので、普段のように活発に発言することができなかった。学習指導案どおりに進まないといけないという焦りがあった。授業者の話の方が多くなり、生徒の発言が少なくなってしまうことが反省点である。

2 グループ討議

3 グループに分かれ KJ 法を使って討議の柱に沿って討議した。

(1) 児童生徒の実態に応じた目標設定がなされていたか。

- 生徒たちは、ATM を見たことはあるが、実際に使ったことがなかった。そのため、生徒の実態に合った適切な目標設定であった。
- 各生徒の生活に焦点をあてた目標設定ができればなおよかった。

(2) 児童生徒が主体的に活動したり考えたりする場面にどのような工夫があったか。

- 実際のキャッシュカードや通帳を提示したり、授業者の体験談を話したりすることで、生徒の興味・関心を高めていた。
- ボードの紙を一枚一枚めくることで、ATM の画面の内容や操作の過程が分かるように教材を工夫していた。
- 生徒の考えを引き出すための問いが多く設定されていた。そして、発問に対する生徒の応答をしっかりと待っていた。また生徒の発言を肯定的に受け止めていた。
- 紙で作った模擬用 ATM の改善点として、iPad 等でタッチパネルを使ったり、音声でたりしたらよい。

(3) 授業の中で児童生徒のどのような主体的な学びが見られたか。

- 学習過程 4 で、暗証番号は他人に知られないようにすることを説明する場面があった。授業者が生徒の一人に「〇〇君の iPad のパスワードを教えて」と尋ね、その生徒はすぐに指を口に当て「しー」と応えた。これは、キャッシュカードや預金通帳で学んだことが iPad にも当てはまると判断しているということであり、知識が活用されていると言える。
- 腕を動かすことが難しい生徒たちが、暗証番号や金額を入力するために模擬用 ATM の暗証番号入力キーの部分頑張ろうとしていた。やってみようという思いが表れていた。

3 指導助言の内容

【指導助言者：広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座

専任講師 船橋篤彦 先生】

- この授業を受ける前、生徒たちは ATM を見たことはあってもどういことができるのか考えたことがなかった。この授業を受けた後に「ATM 触ってみたい。だってお金引き出せるんでしょ？」と生徒が言えたなら、主体的な学びが起きていると言える。生徒たちは授業で学んだことを現実世界で使おうとしているからである。主体的な学びを实践する上で大事なことは、生徒たちが今までとは違う見方で世界が見えるようになることである。

- 大人の認識と子どもの認識は違う。そのため、授業者が提示した写真の中から見つけて欲しいと意図していることが生徒に伝わらないことがある。見つけて欲しいこと、考えて欲しいことが伝わるように教材として提示する写真の中身をよく吟味する必要がある。

④ 講演会のまとめ

① 講師・演題

<講師>

広島県教育委員会事務局 教育部 特別支援教育課 指導主事 内田俊行先生

<演題>

「主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり」

② 講演内容

「今後の社会変化と主体的な学び」

- ・育成すべき資質・能力の三つの柱
- ・主体的な学び—学習者基点の能動的な深い学び
- ・西条特別支援学校における主体的な学び

今後の先行き不透明な社会に子どもたちを送り出す立場として、どのような力が求められるのかを見据えた教育を行う必要がある。変化する社会においては「学びに向かう力」が従来にも増して必要となり、学校教育の「主体的な学び」を通して養っていく必要がある。

「課題発見・解決学習」

- ・「課題発見・解決学習」の過程（イメージ）
- ・特に充実が求められる学習活動

「課題発見・解決学習」は既有知識や経験が土台となって次の学習へつながっていく。個々の課題解決学習がそれぞれ独立して展開されるのではなく、一つ一つの学習が螺旋状につながって発展していくことをふまえ、学習に先立って児童生徒のどのような知識や経験を学習の土台にするのかを考えたり、それぞれの「課題発見・解決学習」をどのようにつなげていくのかについて見通しをもつことが大切である。

「課題発見・解決学習」の導入においては、児童生徒が「自ら課題をもつこと」が何より大切である。そのために、これまでの児童生徒の経験や既有知識との「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、児童生徒に「気になるな」「何とかしたい」という思いをもたせることができるような課題設定が求められる。「思わずやってみたい」と思わせるような仕掛けのある課題設定の例として、「最高の割合のカルピスでおもてなしをしよう」や「作者になったつもりで作品の続きを書こう」などがある。優れた実践に学びながら魅力ある課題設定を考えていきたい。

「課題発見・解決学習」の学習過程においては、児童生徒が「やってみたい」「これは何だろう？」と思うことができるように、実態に合う課題や自己選択場面の設定が求められる。さらに、「わかった」「やりきった」と思うことができるように、学習過程における十分な活動量や、友達との関わり、しっかりとした賞賛の場面を確保し、学習活動全般を通して児童生徒の思考が働くように取り組んでいきたい。

「主体的な学びを支える学習評価」

・「ルーブリック評価」の活用

「主体的な学び」を通して身に付けたい力が十分に付いたかを評価する際には、様々な学習評価を用いて、達成度を総合的に振り返るようにしていきたい。

従来の評価方法では計ることができない態度、学習者が自分で感じ、思考できたか否かを評価するためのツールとして「ルーブリック評価」の活用が考えられる。

学習に先だって学習達成度の目安となる児童生徒の行動を「4. こちらの予想以上に目標を達成した」「3. 十分達成した」「2. おおむね達成した」「1. 達成できなかった」の4段階で想定し、学習目標の達成度を判断する基準として用いることによって、総合的に学習の達成度を評価することができる。

「今後の学校教育」(まとめ)

- ・特別支援学校における広島版「学びの変革」アクション・プラン
- ・平成29年度 広島県教育資料より 平成30年度の全県展開の取組

平成30年に広島版「学びの変革」アクション・プランが全県展開される。「学びの変革」アクション・プランの実施に向けて、自校の児童生徒に育成を目指す「資質・能力の設定」や目指す資質・能力をどの教科でいつ育成するかについての「構想」や、課題発見・解決学習の「単元開発」, 「年間指導計画」への位置づけ等が求められる。西条特別支援学校の児童生徒にどのような資質・能力の育成を目指したいか、社会の中でどのような力が必要となるのかを学校全体でしっかりと議論し、日々の授業を通して検討していくことが大切である。

(3) 校内研修会

日時	平成 29 年 5 月 29 日 (月)
講師	広島大学大学院教育学研究科 特別支援教育学講座 船橋篤彦先生
研修	主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり
<p><研修内容></p> <p>1 西条特別支援学校の現状と課題</p> <ol style="list-style-type: none">1) 西条特別支援学校における「主体的な学び」(外から見えること)2) 西条特別支援学校における学びの変革(YMCA計画)の提案3) 西条特別支援学校の現状を踏まえた「主体的な学び」 <p>2 「主体的な学び」の創出に向けた単元開発</p> <ol style="list-style-type: none">1) 「主体的な学び」の定義と単元学習2) 「課題解決学習」の段階性について3) 課題「認識」学習の取り扱い <p>3 西条特別支援学校における「主体的な学び」の創出のために</p> <ol style="list-style-type: none">1) 他校の取組2) 西条特別支援学校の今後の課題 <p>以上の内容について研修を受けた。ミニワークを通して「主体的」「自主的」という用語について具体的に考えて意見を交流した後、複数の類型の生徒が在籍する本校の実態に即して西条特別支援学校の現状を踏まえた「主体的な学び」について考えることができた。</p> <p>まず、「主体的な学び」の創出に向けて、単元学習では「課題解決学習」の段階性を踏まえる必要があることを学んだ。「課題解決学習」には「課題認識学習」「課題発見学習」「課題解決学習」という段階性があり、それぞれの段階で教師の役割とともに、目指すべき生徒の姿も変容する。よって、単元学習の中で児童生徒の「認識(知ろうとする)」→「発見(やろうとする)」→「解決(もっとやろうとする)」姿を目指すこと、段階的に変容する児童生徒の目的意識と教師の役割を明確にすることが求められることを学んだ。</p> <p>さらに、「ルーブリック評価」の活用の仕方について学んだ。重度重複の児童生徒の場合、「課題解決学習」における「認識」の根拠となる行動が取り出しにくい点が難所である。指導項目ごとに達成目標を設定し、観点別の評価基準を明確にした「ルーブリック評価」を活用することによって、明確な基準に基づいてねらいが達成できたかどうかを評価し、新たになった課題を次の単元開発に生かすことができる。指導と評価の一体化が求められる今、特別支援学校における「ルーブリック評価」の開発と試案が望まれていることを理解することができた。</p> <p>「主体的な学び」のためには、まず児童生徒の「自発性」や「自発的な学び(動き)」を十分に引き出すことが大切である。校内における「主体的な学び」の定義化を行うこと、特にⅢ類型の児童生徒の教育における自立活動で身に付ける「コンピテンシー」を具体化することが西条特別支援学校の今後の課題であることが研修を通して明確になった。</p>	

日時	平成 29 年 7 月 10 日 (月) 16 : 00~17 : 00
講師	自立活動部
研修	「自立活動アセスメントシートについて」
<p><研修内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動とは 自立活動における「自立」の定義，自立活動の指導内容例や肢体不自由のある児童生徒における指導内容づくりの視点等について確認。 ・自立活動アセスメントシート Ver.2 について 自立活動を主観点とし，6 区分ごとに実態把握のシートがある。実態把握の内容をあらかじめ設定することにより，専門性の向上を目指すもの。 ・演習 シートの記入の仕方を確認。現在記入している個別の指導計画の実態把握の内容とアセスメントシート Ver.2 の内容を照らし合わせ，気づきを共有する。 ・新学習指導要領について 6 区分 26 項目から 6 区分 27 項目へ。指導すべき課題の明確化，課題相互の関連の検討。 	

日時	平成 30 年 2 月 1 日 (木) 16 : 15~17 : 00
講師	自立活動部
研修	「第 1 回自立活動の個別の指導計画作成研修会」
<p><研修内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領における自立活動の改訂及び要点等 6 区分 26 項目→6 区分 27 項目へ（「健康の保持」の項目が一つ増える <u>指導すべき課題の明確化及び相互の関連の検討</u> 具体的な指導内容について (自己選択・自己決定を促す指導内容，自立活動を学ぶ意義を考えさせるような指導内容) 個別の教育支援計画等の活用 ・自立活動の個別の指導計画の作成について 本校で現在使っている書式と来年度から使用する書式を使い，新学習指導要領で示されている自立活動の個別の指導計画の作成手順を説明 今後のスケジュールを提示 自立活動アセスメントシート Ver.3 の内容について 自立活動の意義及び指導についての確認 	

3 成果

ア 校内全体研修会

年度初めに外部講師を招聘し校内全体研修会を実施した。「主体的な学び」のためには、まず児童生徒の「自発性」や「自発的な学び（動き）」を十分に引き出すことが大切であることや単元学習の中で児童生徒の「認識（知ろうとする）」→「発見（やろうとする）」→「解決（もっとやろうとする）」姿を目指すこと、段階的に変容する児童生徒の目的意識と教員の役割を明確にすることが重要であることを学んだ。

イ 各学部・各類型での研修会

グループに分かれ、2回実施した。児童生徒の自発的及び主体的な姿や主体的な学びを創出するための取組、取組を行う上での疑問点や課題などを話し合った。

「主体的な学び」を創出するために考えられる取組として

- ・いかに興味をもたせるか
- ・楽しい、もっと知りたいという動機づけの工夫
- ・考える時間の確保。また、児童生徒が考えるきっかけとなるような言葉掛け
- ・自分でできる内容や考えられる内容を授業に組み込んでいく
- ・一人で動ける環境づくり（教室の整備、個々に応じた教材・教具、支援具）
- ・「できる」「できた」という自己肯定感や達成感を感じられる授業づくり

などがあげられた。また、疑問点や課題として

- ・Ⅲ類型児童生徒の発信をどう的確に捉えていくか
- ・興味・関心をどう広げていくか
- ・自発的及び主体的な動きをどう般化していくか
- ・児童生徒の発想に柔軟に対応できる授業展開の取組
- ・限られた生活空間や体験、少人数での授業の中で児童生徒にいかにモチベーションを高められるか
- ・少人数授業が多く、学び合いが難しい
- ・将来を見据えて今、何を学んでいくか

などの意見が出された。学年や類型等で分かれ、少人数で研修を行ったことで、具体的な児童生徒の姿を出し合いながら話し合いを深めることができた。

ウ 授業研究会、研究協議会

授業研究会は校内と公開を合わせ各学部2回実施した。1つの授業について皆で考え、意見を交換する良い機会となった。指導助言者からは児童生徒の主体的な学習のための様々な助言をいただいた。

- ・意欲を引き出す導入や教材提示の工夫
- ・既習事項を活用した学び
- ・児童生徒の思考を深める言葉掛け（「どうして」「本当にそうかなあ」）
- ・主体的な行動を引き出す教材・教具、支援具の準備
- ・待つことも含めた支援の工夫
- ・めあてにそって振り返りをさせることで自分の学びを確認できるようにする。

研修したことをその後の授業改善に役立てることができた。

エ アセスメントツールの活用

自立活動アセスメントシート Ver.2 についての全体説明会を行い、校内に周知をした。夏季休業中に各担任で記入をすることで実態把握の見直しを行い、2学期の個別の指導計画作成時の目標設定に反映させるとともに、学年・学級の担当者間や保護者との連携にも活用するようにした。自立活動アセスメントシート Ver.2 を活用したことで良かった点として、児童生徒の課題を明確につかむことができた、担当者間で意識統一できた、把握が不十分だった観点について保護者と連携でき、より実態把握ができた等の意見が挙げられた。

オ 教材・教具，支援具研修会

各自作成した教材・教具，支援具を持ち寄り，学部ごとに研修会を行った。児童生徒の実態と教材・教具，支援具の活用方法について発表し，意見交換を行った。今までに作製した教材・教具，支援具については専用の教材庫を設け，随時貸し出しを行っている。今年度も多くの教材・教具，支援具の貸し出しがあり，有効に活用された。また，夏季公開研修会，公開授業研究会では教材・教具，支援具の展示を行い，外部に向けて情報発信を行い，好評であった。

カ 指導略案活用による授業改善

指導略案に児童生徒の「主体的な学び」について記入するように様式を変更し，日々の授業の中で主体的な学びについて意識して授業改善を行った。

4 今後の課題

本校児童生徒の実態に応じた「主体的な学び」について1年間研究を行った。研究を行う中で次のような課題が出てきた。

- ・興味・関心をどう広げていくか
- ・児童生徒の発想に柔軟に対応できるよう授業をどう展開していくか
- ・自発的及び主体的な動きをどう般化していくか
- ・重度重複障害の児童生徒の発信を教員が的確に捉えられているか
- ・限られた生活空間や体験，少人数での授業の中で児童生徒のモチベーションをいかに高めていくか
- ・少人数授業が多く，学び合いをどうしくんでいくか

今後も個々の児童生徒の主体的な学びに迫り，卒業後の豊かな生活につながる力をつけられるよう研究を進めていきたい。また，今年度のまとめを基に来年度は主体的な学びを促す授業の工夫についてさらに研究を深めていく。

お わ り に

本校では今年度より3年間「主体的に学ぶ児童生徒を育む授業づくり」をテーマとした研究を進めて参ります。

今年度は「本校児童生徒の実態に応じた『主体的な学び』」を中心に取組を行いました。

まずは児童生徒の『主体的な学び』をどう捉えるかという観点で学部ごとにまた類型別ごとに分かれグループ研修に取り組みました。また今年度も広島大学大学院教育学研究科専任講師 船橋 篤彦先生をはじめ、多くの外部講師の先生方より、御指導・御助言をいただきました。「主体的な学び」の創出に向けて、単元学習では「課題解決学習」の段階性を踏まえる必要があることを学び、「課題解決学習」には「課題認識学習」「課題発見学習」「課題解決学習」という段階性があり、それぞれの段階で教師の役割とともに、目指すべき生徒の姿も変容する。よって、単元学習の中で児童生徒の「認識(知ろうとする)」→「発見(やろうとする)」→「解決(もっとやろうとする)」姿を目指すこと、段階的に変容する児童生徒の目的意識と教師の役割を明確にすることが求められることを学びました。

また、「主体的な学び」の創出に向けての自主教材開発の研修会も学部ごとに実施し、教師同士で児童生徒の実態をよりふまえたものとなるよう検討し、有意義な研修会となりました。自立活動部では事例研修会や上肢の動きのチェックシートの作成及び活用方法の研修会の実施、自立活動部だよりの配布等を行い、本研究の内容を深めていくことができました。

今後、研究の成果を踏まえ、的確な実態把握、目標設定を行った上で、個々の児童生徒一人一人の教育的ニーズをふまえた授業評価について、自立活動の視点で、教育内容や教育方法を一層充実させる方策を考えながら、日々の授業改善に努めて参ります。

最後になりましたが、本研究紀要作成に当たって御指導・御協力いただいた多くの皆様へ感謝し、厚く御礼申し上げます。

今後も、本校の児童生徒一人一人と、児童生徒の成長にかかわる教員が、より一層輝いて本校をつくっていきますように、皆様より御教示、御支援をいただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。